

「ベビーカーの向きによる乳児の反応の違い」

1933026 佐藤唯香 大塚ゼミ

要旨

乳幼児を運搬する道具の一つとしてベビーカーが挙げられる。ベビーカーには子どもが外を向き母親が後ろから押して使用する外向きと、母子が対面した状態で使用する内向きの2種類が存在する。筆者は接客をするアルバイトを通して、外向きと内向きのベビーカーでは店員と子どもが顔を見つめ合える外向きと、母子が視線を合わせ、表情を通してコミュニケーションを取る内向きの2種類の向きがあることに気づき、その向きによって子どもの視線の向け方や母子のコミュニケーションの取り方に違いがあるのか疑問に思った。

乳児用品やベビー用品の用途や使った時の親子の心理などの研究や論文は多い一方で、乳児運搬用具に特化した研究や乳児運搬用具に乗っている母子の心理や影響などについての研究は少ない。そのため本研究では、乳児運搬用具であるベビーカーに焦点を当てて、それを利用する母子の相互作用、子どもの視線に注目しながら研究を進めていく。また、ベビーカーの使い方についても、相互作用のあり方と関連させながら考察する。

今回、3名の親子に撮影協力をしてもらった。実験の内容として、ベビーカーに子どもを乗せた状態で、5～15分程度の時間、対象の親子の散歩ルートを歩いてもらった。ルートは母親が普段歩いている道を選んでもらい、自宅から駅までルートや公園の周りを1周するなど、撮影協力してもらった親子それぞれで歩いた道は異なった。各対象の親子に2回の撮影をもらい、1回目も2回目も同じルートを歩いた。この撮影した映像から、子どもの反応と、母親に視線を向けた回数と時間、身体を動かした時間を記した。

この実験を通して、「内向きの場合は母親と対面しているため、外向きの時よりも母子の視線が合い

やすいのではないか」と仮説を立てていたが、結果として、外向き時には子どもは外の景色に興味を持って車や人に視線を向けており、内向き時には外にも興味を持ちつつ母親を見る回数が外向き時より多くなった。このことから、ベビーカーに乗る子どもは母親だけをずっと見ているわけではなく、予想以上に外の世界に興味を持って視線を向けていることが分かった。その他にも、人が通り過ぎた際に、その人に視線を合わせ、じっと見続ける場面が多く見られた。そして子どもは、通り過ぎた人を見た後に母親を見るようにして視線を動かさず様子が何度もあり、社会的参照が見られた。一方で、子どものその日の睡眠時間や機嫌などによって、身体の動かし方や興味を持つ物に差が出ること、視線の向け方には個人差が生じることも知った。

今回の研究では、母子での視線の合わせ方やベビーカーの向きに注目して実験を行ったが、父子の場合や乳児運搬用具の1つでもある抱っこ紐の場合だと今回とはまた違った結果になると推測したため、別調査を進める必要がある。